

1. 執権 2. 天皇 3. 将軍 4. 大王

1. 狩猟・採集中心の生活から、稲作を中心とする社会へ移行し始めたこと

2. 大陸から伝来した仏教に基づき、全国一斉に寺院の建立が始まったこと

3. 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと

4. 各地の豪族が独自の宗教観に基づき、異なる形式の墓を競って造ったこと

1. 遣唐使を廃止することで大陸との交流を制限し、日本独自の国風文化を育むとともに、律令国家の形成を早めるため。	2. 仏教を日本に広めるために、中国から高僧を招くとともに、寺院建築や経典などの進んだ文化を公的に導入するため。	3. 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。	4. 後漢の皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かり、九州北部における小国の連合を束ねる権威を確立するため。
--	--	---	--

1. 鉄製の鏡や装飾品を大量に作り、それらを各地の豪族に配ることで宗教的な権威を認めさせた。	2. 鉄製の大型船を建造して中国の唐と直接貿易を行い、最新の法制度を取り入れることで中央集権化を進めた。	3. 鉄製の武器や鎧を量産して軍勢力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。	4. 鉄製の貨幣を鑄造して全国に流通させ、租・庸・調の税制を確立することで経済的に支配した。
--	--	---	--

1. 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。

2. 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆が大規模な土木作業に動員できるようになった。

3. 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。

4. 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。

1. 朝鮮半島から移住し、漢字や仏教の伝来、須恵器などの陶質土器の製作技術を日本に伝えた。

2. 平安時代に地方の政治が乱れる中、自らの土地を守るために武装し、後の武士の源流となった。

3. 九州北部の防衛のために東国から派遣され、唐や新羅による侵攻に備えて沿岸を警備した。

4. 中国の優れた制度や文化を吸収するために日本から派遣され、小野妹子らがその代表である。

1. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授かり、国内の豪族に対して自らの正当性を示すため	2. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	3. 中国の進んだ律令制度を学び、仏教を公認することで、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため	4. 白村江の戦いで敗れた後、唐との国交を回復し、大陸の最新文化や技術を積極的に導入するため
--	--	---	--

1. 全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、仏教を中心とした国家体制が完成した。
2. 青銅器と鉄器が同時に伝わり、金属器を使った道具の製造が初めて行われた。
3. 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。
4. 大陸からの技術移転により、日本列島で初めて米作り（水稲耕作）が始まった。

1. 木版印刷の技術を応用して表面に色が塗られ、庶民の間で流行した。
2. 表面に複雑な縄の模様がつけられ、主に祭祀用の道具として用いられた。
3. 密閉された穴窯などを用いて高温で焼かれ、硬く灰色をしている。
4. 野焼きによって比較的低い温度で焼かれ、表面が赤褐色をしている。

1. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。
2. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。
3. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。
4. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。

1. 倭寇 2. 渡来人 3. 朝鮮通信使 4. 防人

1. 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。
2. 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。
3. 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に用いた。
4. 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。